

古谷 眞司 議員 … 1件の一般質問

教育環境の整備と教育現場の実態



町長：教育委員会と十分連携していく

古谷

①小中学校グラウンドの早期利用について、6月定例議会での教育長答弁では、グラウンドが傷むため、排雪は難しいとの答弁であったが、毎年、北陽小学校では、道路除雪等による堆積された雪を排雪している。その事実からグラウンドの排雪は可能であると考えられるかがか。

②平成27年度全国学力・学習状況調査の本道における調査結果が公表された。そこで、本町においての調査結果が出ているのであれば、報告と教育長の見解はいかがか。

③小中学校において、日常的に夜遅くまで職員室の明かりがついている。教職員においては、部活動、生徒指導、そして保護者対応と非常に多忙な日々を過ごしており、休日も返上し、子どもたちの学習支援に非常に邁進している。

このような多忙な生活環境では、身体的、精神的にかなりの負担がかかっているものと心配される。本町の教育現場の実態をどこまで把握して

いるのか、また、それに対する改善の対策をとっているか。

④俱知安町通学路交通安全プログラムが策定されている。その中で、点検結果や対策内容について関係者間の認識を共有するために対策一覧表及び対策箇所図を作成し公表するとなっている。

その関係者の対象者には、町内会等は入らないのか、またいつごろをめぐりに作成されるのか。

町長

①教育委員会が取り組んでいる雪割りの実施が最良だと考える。今後とも教育委員会と十分連携の上、子どもたちが早く利用するためには一部分の排雪をしないと無理な部分はある。予算もあるので、十分協議してできるだけ早く雪割りして、早くグラウンドが使えるように工夫していく。

②本町の小学校全体の結果では、国語の知識に関する調査で全国平均を下回ったが、それ以外では全国平均を上回った。また、中学校では、国語と数学で若干全国平均を下回ったものの、ほぼ全国と同程度の水準、今年度で実施された理科では、全国平均を上回る結果となった。

各小中学校では、学習環境の徹底をはじめ、



春を待つ俱知安中学校グラウンド

的なかどうかとも検討し、雪の状態も見ながら対応していく。

また、中学校では、国語と数学で若干全国平均を下回ったものの、ほぼ全国と同程度の水準、今年度で実施された理科では、全国平均を上回る結果となった。

各小中学校では、学習環境の徹底をはじめ、

ティーム・ティーチングや習熟度別などの指導方法の改善、学習支援員による個別指導、少人数指導体制の充実など、各々が学力向上に向け組織的に取り組んでいる効果が、少しずつ出ている。

現時点での概要報告とし、12月定例会の行政報告で分析結果を報告する。

③各小中学校の勤務の状況は、報告書等で把握をしている。

校長会、教頭会などで教職員の心身の健康面について配慮してほしいと伝えている。道教委においても、時間外の縮減に向け全道的な取り組みを行っている。

また、各学校でもそれぞれの実態に応じ定時退勤日を設定したり、時間外縮減に向け仕事のやり方を見直すなど、具体的な啓発の取り組みを行っており、少しずつ効果が出ているとの報告を受けているが、町全体での大きな改善とはなっていない。

教員の指導体制の充実という観点から、一人でも多くの加配教員が配置

されるよう道教委に対し働きかけをし、町独自で学習支援員を増員しながら配置するなど、教員の業務の軽減につながるような支援策を講じている。

今後、教職員の業務の軽減に向け、各学校の管理職とも協議をしながら、改善に向けた取り組みを行っていく。

④小樽開発建設部俱知安開発事務所など合計8組織からなる通学路における安全対策の関係機関である。その中には町内会関係は含まれていない。

各小中学校から、危険箇所として合計10カ所報告を受けている。この報告を受けた箇所については、8月26日、31日の2日間で全箇所の合同点検を実施し、現地で改善に向けた方策等の意見交換を行った。

今後、10月上旬をめどに、再度、推進会議を開催し、各危険箇所の対策一覧表を整理し、10月下旬には、町ホームページで公表する。